

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

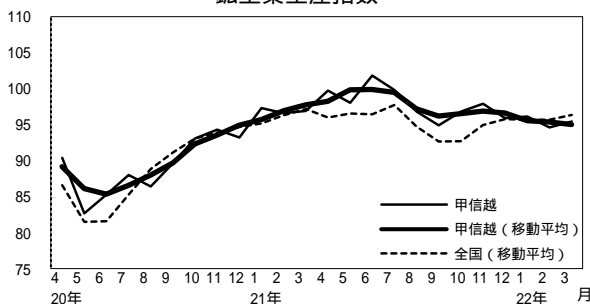
	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、「電子デバイス、電気・情報通信」や「石油・石炭、化学、プラ製品」が減少したこと等により、前期比1.5%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値ウェイト	生産				
		10 - 12月期	1 - 3月期	1月	2月	3月
電子デバイス、電気・情報通信	28.9	4.1	1.9	3.4	5.3	0.9
酒・生産・業務用機械	24.8	3.1	0.6	2.8	1.2	1.6
食品・たばこ	12.0	0.1		2.3	0.1	
石油・石炭、化学、プラ製品	10.3	0.2	2.0	1.8	3.0	2.0
鉄業、非鉄金属、金属製品	8.8	3.1	1.7	3.3	0.6	2.8
鉱工業	100.0	0.3	1.5	0.2	1.6	0.8

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
 2. 1 - 3月期、3月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

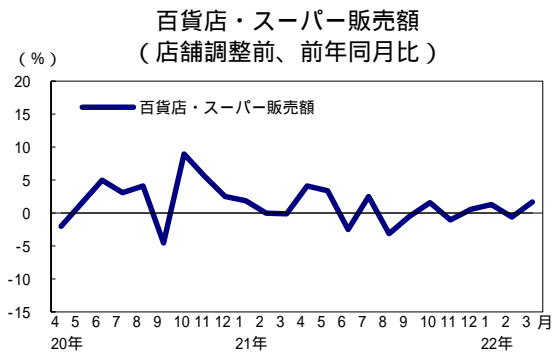
個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比 0.5%増となった。月別にみると、1月は前月比 0.2%減、2月は同 0.6%増、3月は同 0.8%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比 0.9%増となった。月別にみると、1月は前年同月比 1.3%増、2月は同 0.6%減、3月は同 1.7%増となった。



	2022年1 - 3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.5	0.2	0.6	0.8
百貨店・スーパー(*2)	0.9	1.3	0.6	1.7
乗用車(*3)	19.3	15.8	19.7	20.9
(季節調整値)(*3)	5.4	7.8	8.6	1.8

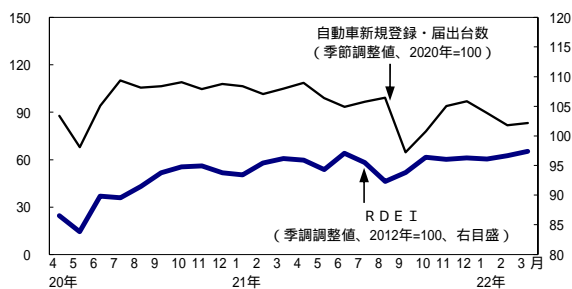
(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

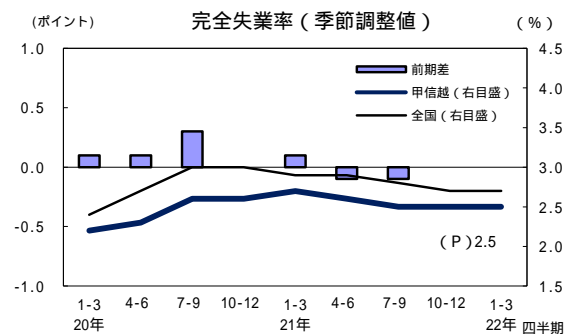
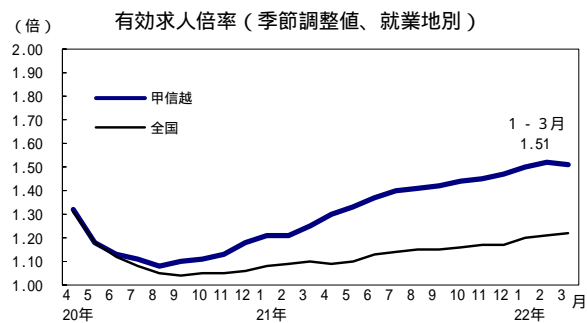
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 1 - 3月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年4月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数は余り減らないが、気分的には多少なりとも落ち着いた感じである。僅かではあるものの、人出が改善しているように思われる（商店街）。
		○	・新型コロナウイルス新規感染者数は増加傾向にあったものの、まん延防止等重点措置期間とは違い、人の動きが活発である。週末を中心に、予約客でほぼ満席となり、若干人の流れが弱かった夜でも、以前と比べれば非常に動きがあり、良い流れが続いている（都市型ホテル）。
		▲	・4月に入って、買上点数は減り、1品単価が上昇している（スーパー）。
	企業動向関連	○	・発注量が若干増えてきている（食料品製造業）。
		□	・資材、製品価格の高騰や納入の不安定化で、景気回復は先に延びるとみている（建設業）。
		▲	・製造業の受注水準は底堅いが、ウクライナ情勢等による原材料価格の高騰や円安進行で輸入コストが上昇しており、景況感や業績面に悪影響が生じ始めている（金融業）。
雇用関連	□	・求人数は良い傾向にあるが、正社員採用はいまだ慎重な姿勢が続いている（民間職業紹介機関）。	
	○	・まん延防止等重点措置解除後の景気回復、地元名物の祭礼等の集客効果への期待感から、宿泊業等で求人数が増加している（職業安定所）。	
その他の特徴コメント			○：春の観光シーズンの開幕とともに、ツアーや一般客の客足が戻ってきている（観光名所）。 □：半導体不足による新車供給遅れが続いている影響で、販売台数が伸び悩んでいる（乗用車販売店）。
先行き	家計動向関連	□	・建築資材価格の高騰で建物価格も上昇しており、今後の新規別荘建築にブレーキがかかる恐れがある（住宅販売会社）。
		▲	・原油から始まって、ガソリン等いろいろな物の値上げが目白押しなので、消費には慎重にならざるを得ない（百貨店）。
	企業動向関連	□	・先行きは良くなっていくと考えているものの、3か月という短期間で考えると、現状から悪くはならないと思うが、大きく好転するとも考えにくい。やはり、新型コロナウイルスや世界情勢の先行きがはっきりしないと、企業や個人も前向きな方向へはいかない（新聞販売店 [広告]）。
		○	・急激な円安により、輸入ワインの価格が上昇している。需要は抑えられる反面、東南アジアへの輸出が期待できる（食料品製造業）。
		▲	・原材料価格の高騰や部品不足が続く、収益を圧迫している。また、中国の都市のロックダウン、ロシア、ウクライナ問題が悪影響となり、これからも増大しそうである（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・新型コロナウイルス関連で経済が回り始めているが、ゴールデンウィーク明けの感染拡大の可能性も残っているため、状況的には変わらない（職業安定所）。
その他の特徴コメント			○：新型コロナウイルスの感染状況もやや落ち着きつつあるが、流れとしては、経済的なことが優先されるので、宴会や会合等、いろいろな場面で飲食の機会が増えてきて、若干上向いてくるのではないかと感じる（コンビニ）。 □：現状の好影響は6月の祭礼終了までは期待できそうである。その後は反動が出てくるように感じている（一般レストラン）。

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

